

デイセンターこだま

畑作業で体力作り、やりがい作り

「デイセンターこだま」は開設から十年が経過し、新しい利用者さんが増えると共に、継続利用していただいている利用者さんにおいては年齢を重ねるに連れてニーズも変化している状況です。多様なニーズに対応する為に様々な活動メニューを用意しています。その一つに畑での活動があります。

これまでも畑作業は活動の中に組み込まれていましたが、自動車で移動しなければならず、少人数での活動にとどまっていた。しかし、今年度より総合活動センターの駐車場前に畑ができたことにより、多くの利用者さんが作業に参加しやすくなりました。その畑では野菜を栽培しますが、普段の生活では畑作業に縁がない方も、草取りや野菜の苗を植える等して体を動かすことで体力作りやストレッチ発散をしたり、あるいは畑の様子を見に行き気分転換を図ったりと様々な形で利用者さんのニーズに応えられるようにしたいと思います。

また、収穫した野菜は、クッキング活動で料理に使用して利用者さんに味わっていただくと共に、自分たちが育てた野菜が形となり収穫できる達成感を感じてもらえたら良いと思っています。

主任支援員 松井 茂雄



ブループーム

宮領入居者の様子について

本年度4月にホーム第一宮領という、店員5名のグループホームがスタートしました。現在生活している利用者の方に今の生活について聞いてみました。

Q..新しいホームでの生活はどうですか？

Aさん..グループホームの生活はとても楽しいです。

Bさん..新しい建物なので綺麗なが良いです。

Q..自宅にいた時との違いはなんですか？

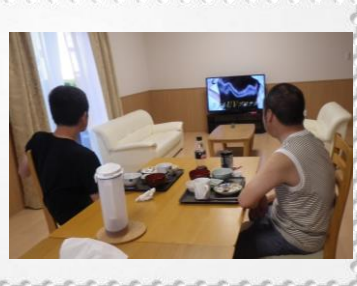
Aさん..自分で部屋の掃除をしたり洗濯をするようになりました。

Bさん..家にいる時お風呂に入るとシャワーが多かったですが、ここに来てからお風呂が大きくて気持ちが良いので浸かるようになりました。

Q..今後の夢はなんですか？

Aさん..将来1人で暮らせるようになりたいです。

Bさん..掃除や洗濯の他にも自分で出来る事を増やしたいです。



支援員 上川 博人

グループホームは障がいがあっても地域の中で普通に暮らしていくことを目的とした生活の場です。利用者の方が自分らしく生活していけるようにお手伝いをし、家庭的なホームを意識したサービスの提供を行なっていこうと思います。

あおぞら工房

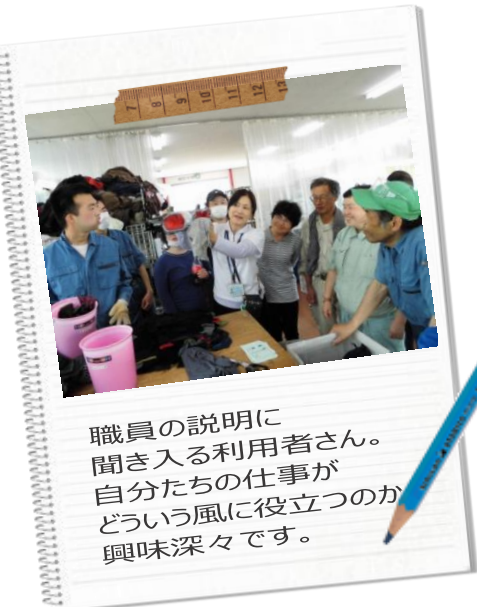
やりがいのある職場作り

四月から、「もつと作業のやる気が上がれば」との思いから、朝礼時にウエス（使い捨て雑巾）などの生産数の目標設定をしています。作業の合間に、『あと何箱ですよ』と声掛けを行い、作業中も目標を意識できるようにしました。そんなある日、「今日は生産目標を達成できました！」と伝えると、利用者さんから自然と拍手が湧き起こりました。その拍手を聞いて、私達の関わり方によって利用者さんも達成感を感じてくれるんだ、と改めて思いました。

また別の日には、自分達が作っているウエスが企業でどのように使われるか、実際の自動車用ランプを用いて勉強会を開きました。なぜボタンなどを取り除く必要があるのか、自分達の作業の意義を改めて認識されたようで、興味深そうに聞き入っていました。

これからも、達成感や作業の意義の実感といったやりがいを、利用者さんが感じられる事業所を目指していきたいと思っています。

あおぞら工房 職業指導員 倉本 馨



職員の説明に聞き入る利用者さん。自分たちの仕事がどういう風に役立つのに興味深々です。

多機能型事業所あさひ

「自ら考え、学び、力にする」

多機能型事業所あさひでは、利用者さんの作業のひとつとして、竹原市の「馬場病院」での清掃作業があります。作業内容は院内の風呂場と階段の清掃です。風呂場の清掃では専用の機械を使用し、入浴用ストレッチャーの洗浄・消毒を行います。その他、浴槽、風呂桶、シャワーノズル、排水溝等の清掃など、作業の種類や工程が多く、習得には随分時間がかかりました。

現在、清掃作業は二名の利用者さんが行われています。始めに職員と作業実習を行いました。機械の使い方や掃除の仕方に四苦八苦される場面もありました。そこで就労支援の手順として、まずアセスメント・作業評価を行い、基本的にモデリング（見本の提示）を用いた支援を行うこととしました。苦手な作業については職員と一緒に作業を手伝いながら、時間はかかりましたが、今ではしっかり作業内容を把握し、機械の使用もスムーズに行えるようになりました。

これからも作業を通して利用者さんが「自ら考え、学び、力にする」ことを大切に、一般就労を目指して支援していききたいと思います。

多機能型事業所あさひ

就労支援員 川崎 大希



放課後等デイサービス 夕風

集団活動で社会性を 協調性を育もう

「みんなやるよ！」A君の掛け声で職員や仲間の皆が集まってきました。ラジカエの始まりです。これまでの活動では、集中力や自立力を高める「個別活動」に重きを置いてきたため、以前の夕風ではあまり見られなかった。コミュニケーションをこころが苦手とされる子どもたちが、今では「いち、に、さん、しー」と、みんなで声を揃えて体操することができています。

コミュニケーションを上手にこころが私たちでも容易ではありませんが、同じ空間で活動するだけでも、見て、感じ、他者との関係に慣れることができるのではないのでしょうか。集団活動への不安要素を軽減し、自然と溶け込めるような活動を徐々に増やし、協調性を育むことができるようにしていきたいと考えています。

夕風支援員 瀧岡 哲



みんなで体操！



夏のおたのしみ

夏のおたのしみといえば、夏まつり、バーベキューなどいろいろありますが、夏といえばやっぱりプール！友達と仲良く外出し、遊んで過ごすことは忘れられない大切な思い出になります。

言葉で伝えることが苦手だったり、たくさん人がいる場所が苦手だったり、人それぞれ苦手なことは必ずあります。

そこで音や暑さに過敏な方、コミュニケーションが困難な方、つい気が散ってしまう方、そういった様々な特性のある方に配慮して対応するようにしています。

たとえば時間や写真入りのスケジュールや、外出先の写真カードを用意したりして、見通しをつける。レストランや買い物では、落ち着いて好きなものを選ぶことができるように、事前にメニューや写真を提示していただきます。

「外出」という経験を通じて、他者との関わりを深め、一人ひとりに合った選び方で「自分の思いを伝える喜び」を感じて頂きたい。そう考えています。

「今日は楽しかった！またヘルパーさんと外出したい！」そう感じて頂けるよう、職員一同頑張ります。

私たちヘルパーこだまでは、今年も楽しいプール外出を企画しています！

ホームヘルプサービス こだま

サービス提供責任者 堀越 優一

